信頼と誇りと

恵み野病院だ<u>より</u>

平成26年6月23日 No.



ごあいさつ

院長 貝嶋 光信

早いものでもう6月が終わろうとしています。道外では今まさに梅雨の真最中でそれが明けると暑い夏、そして台風シーズンと続きますが、北海道はこれからが一年で過ごしやすい季節ですよね。よく道外からの来訪者に「夏の北海道はすがすがしくてうらやましい」などと言われますが、「我々はこの時のために寒い冬も我慢しているんだよ」と内心思っております。



さて実は来月、私は恵庭市民の方々向けの健康講座でお話することになっております。 内容は「脳卒中の予防と治療―最新の話題―」です。日時、場所は下表をご参照してく ださい。参加には事前の申し込みが必要とのことです(問合せ申し込み先下表)。どう ぞ振るってご参加頂きますようお願いします。当日お会いできることを楽しみにしてお ります。(6月12日 記)

日時	場所	問合わせ 申し込み先
7月3日(木)13:30-15:00	恵み野憩いの家	たよれーる きた 36-5035
7月10日(木)13:30-15:00	柏陽憩いの家	たよれーる みなみ 34-8467
7月24日(木)13:30-15:00	福住憩いの家	たよれーる ひがし 35-1071

特定疾患治療研究事業における医療受給者証更新手続きのお知らせ

更新を希望される場合は、毎年7月から9月までの間に医療機関で発行する臨床調査個人票とその他必要書類を管轄の保健所に提出していただいておりましたが、現在、「難病の患者に対する医療等に関する法律案」が国会に提出されているため、今年度に限り管轄保健所より平成26年12月31日迄延長された受給者証が全員に交付される予定です。

具体的な内容が決まり次第、既認定者に管轄の保健所より通知される予定です。なお、ウイルス性肝炎進行防止対策・橋本病重症患者対策及びスモンの患者に係る更新手続きについてはこれまでと同様に7月から9月までの間に臨床調査個人票とその他必要書類を管轄の保健所に提出していただく事になります。

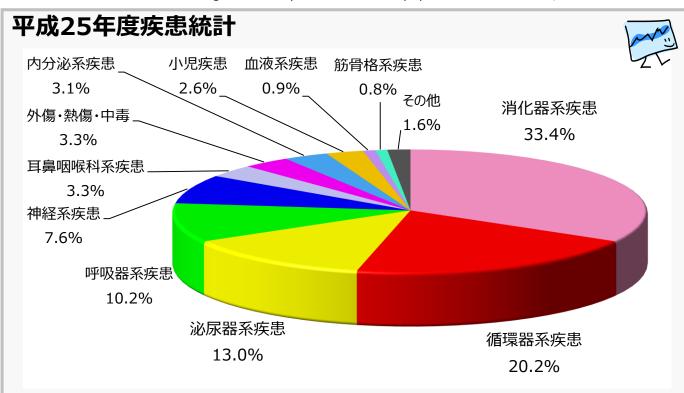
病院敷地内禁煙のお知らせ

平成20年7月1日より、当院の病院建物内および駐車場、通路を含む

敷地内での喫煙は禁止となっております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。







25年度をMDC(主要診断群)別に分類した結果、最も多かった疾患群として消化器系疾患(MDC06)が全体の3割強を占めています。また、前年度(24年度)と比較した場合、件数は若干ですが増加しますが割合は増減なしの同じでした。

疾患群の中の主要病名をみた場合、順位には変動ありません。大腸ポリープは約20件増加するも大腸の悪性腫瘍はさほどの増減はありませんが、胃の悪性腫瘍は約20件減少しました。

25年度	
大腸ポリープ	323件
胃の悪性腫瘍	125件
大腸の悪性腫瘍	98件



24年度	
大腸ポリープ	306件
胃の悪性腫瘍	144件
大腸の悪性腫瘍	95件

二番目の疾患群として循環器系疾患(MDC05)で全体の20%を占め、主要病名の狭心症は恵み野病院では一番件数が多い病名になっています。尚、前年度(24年度)の循環器系疾患と比較した場合は約70件増加しました。

25年度	
狭心症	494件
心不全	103件
閉塞性動脈疾患	52件



	24年度	
	狭心症	461件
ı	心不全	99件
	急性心筋梗塞	52件

狭心症が約30件増加していますが、心不全はあまり変化がなく、急性心筋梗塞については25年度は4番手に位置し件数はさほど変わりありませんが、閉塞性動脈疾患(ASO)が増加しました。

25年度	
上部尿路疾患(結石)	101件
前立腺の悪性腫瘍	81件
慢性腎不全等	72件



24年度	
前立腺の悪性腫瘍	108件
上部尿路疾患 (結石)	85件
慢性腎不全等	70件

三番目の疾患群としては泌尿器系疾患(MDC11)で全体の13%が該当します。前年度(24年度)と比較すると若干、減少しました。上記二つの疾患群では主要病名の順位に変動はありませんが、この疾患群では結石と悪性腫瘍の順位が逆転しました。

(次ページへ続きます)





四番目の疾患群としては呼吸器系疾患(MDC04)で全体の約10%にあたります。この疾患群は前年度(24年度)と比較して件数は約70件増加し割合も上昇しています。

25年度	
肺炎等+誤嚥性肺炎	247件
ぜんそく	94件
気胸	23件



24年度	
肺炎等+誤嚥性肺炎	216件
ぜんそく	60件
気胸	15件

最も多い肺炎等の件数は約30件増加、次いで喘息も約30件増加しています。15歳未満が増加している傾向なので小児科の患者増の結果が要因ですが、気胸も件数的には増加しています。

五番目の疾患群としては神経系疾患(MDC01)で前年度(24年度)と比較して約30件、割合は約1%低下しました。更に在院日数も短縮されたので、病床稼働率が低下した要因として挙げられます。

25年度	
脳梗塞	129件
水頭症	57件
てんかん	38件



24年度	
脳梗塞	146件
てんかん	58件
水頭症	50件

脳梗塞・てんかんの件数が減少しており、てんかんは約20件減少しています。

恵み野病診連携セミナー

第22回 恵み野病診連携セミナーが6月4日に恵庭RBパーケで開催されました。

手稲渓仁会病院 大動脈血管内治療センター長 栗本 義彦先生 より「大動脈疾患に対するステントグラフト内挿術」の演題で ご講演をいただき、約40名の参加者がありました。



地域医療連携室 松井



ケアサポートまつり

5月31日に、第18回ケアサポートまつりを開催しました。まつりの目的は、利用者様がお祭りを楽しんでいただくこと、施設と地域の交流の機会ということで、毎年この時期に開催させていただいております。当日は、幸いにも天候に恵まれ、入所・通所の利用者様、ご家族様、地域の方多数のご来場を頂きました。まつりでは、職員が出店を営業し、焼き鳥、枝豆、フライドポテト、やきそば、お菓子、おもちゃ等の販売が行われました。



恵み野ケアサポート 藤田



また、お祭りのアトラクションとして、千歳民 謡教室の方、幼稚舎えるむの子供たちによる和太 鼓、恵庭紅鴉によるよさこいの演舞が行われまし た。

大人顔負けの子供の上手な民謡の歌唱があったり、幼稚園の子供のりりしい和太鼓に、利用者さん皆とても笑顔で楽しんでいただけたと思います。よさこいは、途中から職員も一緒に踊り、利用者様・職員ともに楽しめたものとなりました。また、来年同じような時期に企画を予定しておりますので、是非お越しください。



血液透析センターの紹介

血液透析センター センター長 渡部嘉彦

<スタッフ> 渡部嘉彦

昭和61年卒、日本泌尿器科学会専門医・指導医



血液透析センターは外来棟4階にあります。皆さんは血液透析あるいは人工腎臓というとどんなイメージをお持ちでしょうか? 糖尿病や高血圧、慢性糸球体腎炎などさまざまな原因から腎臓の機能が低下した結果、2012年末の全国集計では約31万人に届くかという方たちが透析治療を行っており毎年増え続けている現状があります。恵庭市、千歳市、北広島市や長沼町など近郊のおよそ23万人の医療圏から当院および恵庭クリニックへの透析治療に通院されている方は現在150-160名前後の方がいらっしゃいます。週に3回、月水金あるいは火木土など病院で3~5時間も過ごさなければなりません。年間にすると156回です。元旦と日曜日以外は祝日も関係ありません。毎回太くて痛い針を2本刺されます。

透析を始める前に、医師から透析治療開始あるいは準備をすすめられた方はたいていの場合、躊躇します。「はじめたら一生続けなければならないのか?」「透析を始めたら仕事や生活が成り立たない」「私はこわくもないし身体のどこもなんともないのになぜ透析をはじめなければならないのだ!」怒り出す方もいます。でも慢性腎臓病は少しずつ病状が進行していくと自覚症状に気がつかない方が多いのです。実際に透析治療を始めた方からは「こんなに楽になるならもっと早くから始めればよかった。」という言葉をよく耳にするのも事実です。確かに今の時代に悪くなってしまった腎臓を良くする薬はなく、完治のためには腎臓移植しかありません。透析治療でも腎臓がよくなるわけではありませんが、本来の腎臓の働きの一部を代用して合併症を抑え、生活のリズムの一部にして普段通りの生活を続けてゆくためと認識していただくのがよいと思います。人生でそれまで働き続けてきて悲鳴をあげた身体に対して、病院で確実に休める時間を持つ事ができるのだよと考えられたらどうでしょうか。

私が透析治療というものに携わるようになった1980年代後半から透析に関わるさまざまな分野の中で①貧血の治療薬(薬剤)②ダイアライザーという血液をきれいにしてゆくための中空繊維の束でできた筒(膜・素材)③正確に水を引くスピードを調整したり、危険がないか常に透析の状態を監視・モニターする装置(工学・機械)などが合併症の克服の中で飛躍的な進歩を遂げてきました。医師と看護師だけではなく、これらの医療機器を最適な状態に維持管理しながら治療を進めてゆく臨床工学技士が重要な役割を担っています。生活や通院にかかわる事で利用できる社会資源の手続きなど相談できるMSW(メディカ ルソーシャルワーカー)も心強いスタッフです。病院がもついろんな職種のスタッフがいてはじめて透析治療が機能しているのです。機械に囲まれているのではなくもっと人間くさいチーム医療の現場です。

対象疾患:主として慢性腎不全ですが、急性腎不全、家族性高コレステロール血症に対するLDL吸着、潰瘍性大腸炎などに対するG-CAP療法、薬物中毒に対する血液吸着、敗血症性ショックに対するエンドトキシン吸着、血漿交換など。

透析装置



